

# 生の舞台を子どもたちに

クラシック音楽を聴いたことのない人、演奏会に行くチャンスが少ない人の所にプロのアーティストが出かけて演奏、生の舞台を楽しんでもらう。桜美林大の学生とアーティストによる訪問型演奏会の取り組みが今年も10月から始まり、町田市、相模原市の小学校と福祉施設で12月まで7日間14公演を予定している。最終日の12月20日には、誰でも聞くことができるコンサートを同大が淵野辺駅前に造った劇場で行う。

## 桜美林大学生有志がプロをサポート

### 小学校・施設訪れ演奏

12月20日  
淵野辺駅前

この取り組みは、同大の舞台芸術研究所であるパフォーミング・アート・インスティテュートの事業の一つ。インスティテュートでは、同大の劇場内で、小学生対象の体験型講座などを行っている。

今回のような小学校の音楽室や視聴覚室、福祉施設のホールなど、劇場以外の場所にアーティスト自身が訪ね、そこで公演をする「アウトリーチ活動」は、

プロと、ギター演奏が得意な教諭との共演を真近で見ると子どもたち（いずれも町田市内の小学校で、10月下旬）



アノ、声楽、邦楽公演を実施。今年はピアノデュオ「DUETW O」、ソプラノ歌手の大森智子さんら5組の音楽家が出演。文化庁、歴史文化財団から助成を受けての公演だ。

参加の呼びかけで集まった学生は卒業生も含めて約20人。それぞれがさまざまな形で参加する。将来、アウトリーチ活動をしたくなるための心構えを学ぶ講座

4年前から行われている。「地域に開かれた劇場を目指しての活動。これがきっかけとなって、参加、公演見学を経て、自身に音楽を演奏しむことや、芸術への関心を高めてもらえれば」と制作担当の瓜生陽さんはいう。

アノ、声楽、邦楽公演を実施。今年にはピアノデュオ「DUETW O」、ソプラノ歌手の大森智子さんら5組の音楽家が出演。文化庁、歴史文化財団から助成を受けての公演だ。

10月下旬、町田市内の小学校でピアノの演奏、ピアノと声楽の演奏が行われた。最初はきょとんとした表情の子どもたちが演奏が進むにつれ、真剣な表情で聞き入る姿に、学生から「子どもたちの聞く態度に感動」「キラキラした目だった」という声も寄せられた。子どもたちからは「私も歌を頑張ろうと思った」「ピアノが歌っている」などの感想が出た。

12月20日は同大パルナスホールで「ハープ・ソプラノ歌手によるエントランスコンサート」と題し、山崎祐介さんのハープ、大森さんの声楽の公演を行う（開演時間未定）。無料、問い合わせは0427704713 3同大インスティテュートへ。

## 子らの真剣さ 学生も感動

音楽の演奏にあわせ、身体表現する出演者



最終公演、一般に公開